



JCPA

農薬工業会

当会は、非営利の任意団体として、次の活動を行っています。

食料生産における作物保護剤の役割とその安全性について正しい知識を普及啓発しています。

農業関係者の方々に作物保護剤の正しい情報を提供し、適正使用を推進しています。



ごあいさつ

世界の作物の20～40%が病害虫・雑草の被害により失われ、何億人もの人々が十分な食料を入手できずに苦しんでいます。当会は、SDGsとも関連付けて、農業への産業としての貢献を掲げたビジョン活動「JCPA VISION 2025」を推進し、作物保護の重要性を周知することに努めています。2020年からのコロナ禍、さらに2022年のウクライナ紛争は、気候変動や病害虫などの既存の危機と相まってフードシステムへの複合的な脅威となっています。食料、肥料・飼料等の農業資材、エネルギーの価格高騰や供給不安も生じ、グローバルに食料安全保障上のリスクの認識が高まっています。一方、日本では食料自給率の向上を図っていく中で、農業現場では農業者の高齢化・担い手不足、地域コミュニティの衰退などの課題があり、農作業の省力化のための新規剤とともにスマート農業や総合防除に利用できる新技術への期待が高まっています。当会は、食料安定供給に向けて作物保護に関わるイノベーションの創出に力を入れ、日本の農業の生産力向上と持続性の両立への貢献を果たしてまいります。

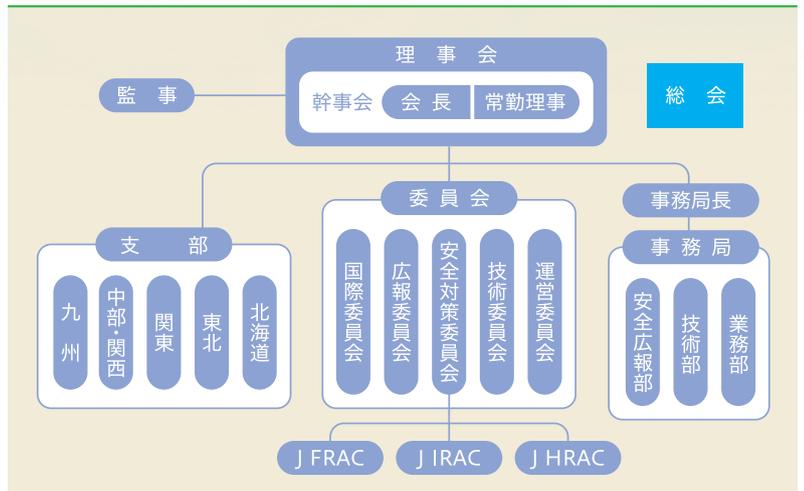


JCPA農業工業会会長
小澤 敏

歴史

- 1946年 農業の検査・統制を目的に農業協会が設立される
- 1953年 農業協会が農業工業会と(社)日本植物防疫協会に分割される
- 2022年 正式名称に英名を追加(Japan Crop Protection Association、略称JCPA)
- 2023年 5月現在、正会員(農業製造企業)34社、賛助会員(商社・副資材製造企業等)44社で構成

組織



国際連携活動

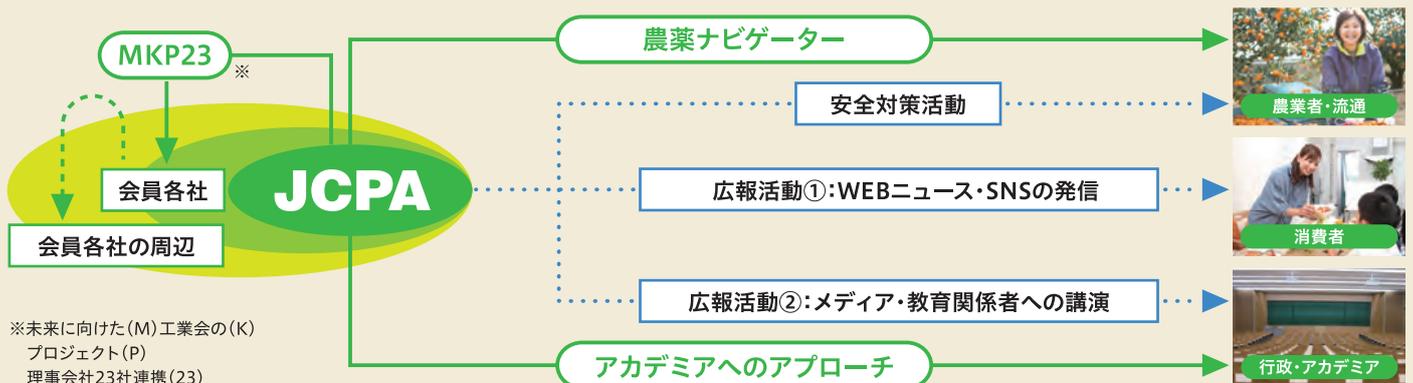
- 農業輸出入に関する法令順守事項等、会員への周知と順守の徹底。
- 世界動向を把握し、アジア諸国における重要案件に関する課題の解決を図る。

技術関連活動

- 農業に係る技術的諸課題に関する情報を収集し、所管官庁と意見交換を行い、健全な農業規制の実現を図る。

発信情報のポイント

- ①食料生産の重要性 ②農業の役割 ③科学的データによる安全性の裏付け
- ④農業の適正使用 ⑤環境への配慮 ⑥技術のイノベーション ⑦薬剤抵抗性管理



※未来に向けた(M)工業会の(K)プロジェクト(P)理事会社23社連携(23)

広報活動

消費者・教育関係者・メディアに対し、農薬についての正しい知識の普及啓発

ホームページの充実

消費者向けコンテンツ、農薬情報局(一般・教職員・専門向け)などを見やすく提供。



メディアへの活動

食生活ジャーナリストや報道記者を対象に情報交換会を開催。

教育関係者への活動

食育担当の家庭科教職員向けに、セミナーを開催。

消費者への活動

■ ホームページでの動画発信

・ 動画ギャラリー

動画を見てクイズに答えよう、役割編、安全性編、ミニドラマを掲載。

・ 「Crop Tech Innovation」動画

過去から将来に向けてのグローバルな技術イノベーション動画を掲載。

■ 新聞等報道への対応

誤解に基づく記事にはホームページに当会の見解を掲載。



■ WEBニュースやSNSの発信

・ YouTuber「佐賀よかでしょう」

「約23,000㎡の広大な土地で農家さんのお手伝いをしてきた!!」

・ YouTuber「るっきい夫婦」

【大自然】家族3人で究極のデジタルデトックスに行ってきました【現実逃避】

・ WEB誌「東洋経済オンライン」(ビジネスマン向け)

過度な「食の自然信仰」を生む心のカラクリとは「人工は悪」と決めつける認識はなぜ生まれる?



安全対策活動

農業関係者の方々に対し、農薬の正しい情報を提供し、農薬の適正使用を目指した正しい理解の推進

農薬適正使用啓発等の資料配布

■ 「農薬の正しい使い方」DVDとリーフレット

DVD内容はホームページ「農薬をご使用になる方へ」に掲載。

リーフレットは植物防疫関係者・団体に無償配布。

2021年度22万部、2022年度12万部を提供。



農薬に関する正しい理解の増進活動

■ 専門講師の派遣

農薬の安全使用指導のための研修会に専門の講師を派遣、2021年度131件、2022年度164件の実績。

■ 農薬でんわ相談

農薬使用者からの相談に対応、2021年度176件、2022年度は243件の実績。

公益社団法人 緑の安全推進協会
講師派遣・農薬でんわ相談
TEL 03-5209-2512

■ 農薬についてよく尋ねられる質問

内容はホームページ「教えて! 農薬Q&A」に掲載。

■ 薬剤抵抗性管理活動

RACコードを利用したローテーション防除についての周知活動を実施。



■ 生産者セミナーの開催

農薬の適正使用について、直売所などご希望の場所に出張しセミナーを開催。



「JCPA VISION 2025」とSDGsとの関わり

「JCPA VISION 2025」将来のありたい姿

1. 農業者が自信を持って農産物を生産し、消費者は安全・安心な食生活を楽しめる社会。
2. 科学技術を用いた新製品・新技術を開発し、世界の食料供給に貢献。
3. 社会からの信頼を得て、産業の健全な発展を支える。

食の未来のために。

2013年から当会は「JCPA VISION 2025」というビジョン活動を立ち上げ、食料生産の重要性と作物保護(農薬)の役割について情報発信を行ってきました。また、このビジョン活動と国連のSDGs(17の目標)との連携についても積極的に発信しています。安定的で持続的な食料供給のために、作物保護(農薬)の果たす役割は今後ますます大きくなると考えられます。SDGsとも連携しビジョン活動を通じて「食と農」への貢献に努めていきます。



近年の関連活動

農業者・流通の方々向けに「当会活動紹介リーフレット」を作成しました。また、蜜蜂等の訪花昆虫保護活動の啓発を目的として、会員の工場や研究所の敷地に訪花昆虫の好む植物を栽培する「蜜蜂フレンドシップ計画」を11会員30か所で実施しています。



ビジョン活動とSDGsとの関連付け

ビジョン活動では、農薬の役割について正しい理解を促進・共有しています。

農薬の役割は

2 飢餓をゼロに
農作物の収量・品質の確保で貢献する。

3 すべての人に健康と福祉を
カビ毒リスクの軽減で健康に寄与する。

8 働きがいも経済成長も
効率化・安定化により農業を成長産業に。

15 陸の豊かさを守ろう
農耕地の拡大を抑えることで緑を守る。

当会活動の役割は

9 産業と技術革新の基盤をつくろう
新技術や製品の創出で基盤づくりに繋げる。

12 つくる責任 つかう責任
農薬の適正使用を通してサポートする。

17 パートナーシップで目標を達成しよう
消費者への啓発を通じて達成を目指す。

JCPA 農薬工業会
Japan Crop Protection Association

〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町2-3-6 宗和ビル4F
TEL 03-5649-7191 (代表) FAX 03-5649-7245 E-mail: jcpa@jcpa.or.jp <https://www.jcpa.or.jp>